



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2009年8月号

「主題」・スローガン

- 国際会長 : 「一つとなる力」
- アジア地域会長 : 「一つとなる力」・「夢見るアジア、愛するアジア」
- 西日本区理事 : 「すべてのいのちを大切に」・「いのち・平和・環境」
- 中部部長 : 「ワイズの理念を胸に自信を持って活動しよう」
- プラザクラブ会長 : 「仲間と共にワイズを楽しもう」

〔Youth Activities〕

8月例会・今後の予定ご案内

【8月臨時例会】

日時：8月4日（火）・18：30－
場所：名古屋YMCA会議室
内容：プラザHP改作検討会

【8月第1例会】

日時：8月20日（木）・18：45－
場所：名古屋YMCA会議室
内容：中部部会準備

【8月第2例会】

日時：8月27日（木）・18：45－
場所：名古屋YMCA会議室
内容：中部部会準備

出席者：役員（鈴木・櫛田・高田）
（義務者）9月担当者（大島・鈴木）
10月担当者（小澤・万福寺）

【今後の予定】

1. パレットキッズとマス釣り大会
日時：8月13日（木）・現地集合：10：00
場所：みやま荘・0264-27-6177
2. 楽例会
日時：8月22日（土）・15：30－18：00
場所：根の上キャンプ場
会費：3000円／人
3. 9月第1例会
日時：9月10日（木）・18：45－
4. 9月第1例会
日時：9月24日（木）・18：45－

第13回中部部会

日時：9月6日（日）・受付：12：00
場所：名鉄ニューグランドホテル 7階 椿の間

◆例会および各種行事の出欠席は、連絡主事の万福寺さんへ
開催前日の午後5時までにご連絡ください。

7月例会・その他行事の出欠表 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者			算定
		1	2	M	
会長	大島 孝三郎	○	○	○	○
	小澤 幸男	○			○
書記	櫛田 守隆	○	○		○
	後藤 猛	○	○		○
直前会長	島崎 正剛	○	○		○
	鈴木 誉三	○	○	○	○
副会長	高田 廣	○			○
	松永 裕子	○			○
会計	万福寺 昭美	○	○		○
連絡主事					
ゲスト					
(M)=	1. 四日市クラブ				
*メーキャップ	-----				
*部会・Yの	-----				
主催行事	-----				

出席率合計・(算定合計/会員数) % 100.0

1. ニコボックス ・当月/累計		
2. オークション		
3. 切手 (寄贈品含む)		
ファンド ・当月合計/累計		

◆次月号の寄稿者は松永さんです。

Eメール・moritaka_kushida@ybb.ne.jp

7月第1例会報告

日時：7月9日(木)・18:45-20:15

場所：名古屋YMCA会議室

1. 鈴木新会長の挨拶

(1) 新役員

会計・高田さん、書記・櫛田にお願いします。

(2) 活動方針

従来から続く以下の3本柱を踏襲する。

・YMCA プログラム「軽度発達障がい児教室」へのサポート

・「インフルエンザ脳症・小さないのちの会」への協力

・老人介護施設への音楽訪問

(3) 会員増強目標

今期中に2人増強したい。

2. クラブ年間予定表・鈴木

詳細予定表メンバーに配布。

3. 08-09年度 決算報告・松永

詳細決算書メンバーに配布。

4. 09-10年度予算・高田

詳細予算書メンバーに配布。

5. 中部部会準備

(1) 中部部会参加申込書送付・櫛田

7月初め開催パンフレットを送付した関係者へ、再度8月号ブリテンにパンフレット・申込書、同封の上郵送する。

7月第2例会報告

日時：7月23日(木)・18:45-20:45

場所：名古屋YMCA会議室

1. 部長訪問実施および予定・大島

7月16日(木)

四日市・津クラブ合同例会：同行者・鈴木

8月6日(木)18:45 ラ・スース

東海クラブ：同行者・後藤・鈴木

8月18日(火)18:30 南山YMCA

名古屋・南山クラブ合同例会：同行者・島崎・鈴木

10月15日(木)時間・場所未定

金沢クラブ・同行者・未定

2. パレットキッズとマス釣り大会・櫛田

参加者・車乗合わせ・集合時間など確認。

3. 東山荘寄付依頼・鈴木

8月第1例会で検討する。

4. 中部部会開催について

(1) 本日欠席の松永さんより、講演会講師大山康弘氏へ8月号ブリテン・プログラムを郵送すること、

とのことづけあり。

(2) 講演会の一般者入場は、YMCAの発達障がい児教室の父兄からのご希望があれば、15人程度を目安に無料でご招待する。ただし、一般の方はお断りする。

(3) 部会で集まった浄財の献金先は、西日本区が推進する「STOP! AIDS キャンペーン」活動を予定する。

(4) 評議会

案内、申込書の作成は7月28日まで島崎さんが、発送は8月号ブリテンとともに櫛田が行う。

(5) 当日の部会、懇親会などの進行役、写真班などの役割は8月第2例会までに決定する。

老人ホームでキントコン♪カン♪

6月28日、いつも通り小澤さん宅に11時半集合、 Hammondオルガンを6人がかりで車に積み込み、鈴木郁子先生との食事後、今日の慰問先アミーユ十番町に着く。

想念寺の子どもコーラス「ポコ・ア・ポコ」の8人が到着、2時開演、会場には入居者とその家族、職員の方々70人ほどが集まる。1曲目は子どもたちと一緒に、終戦間もない昭和22年の夏からNHKラジオで放送された「鐘の鳴る丘」を合唱する。入居者の大方の年齢が丁度10代の頃だろうか。昭和時代をがむしゃらに駆け抜けて来た今、あの時の自分と同じ年頃の人の介護を受けている姿を見ながら、「ゆっくりしてください」と声をかけたくなる。

さらに昭和27年春に始まった「君の名は」の番組冒頭部分、「忘却とは忘れ去ることなり。忘れ得ずして・・・」のナレーションに被せて Hammondオルガンの演奏が当時のまま流れる。これは、小澤さんがNHKにお願いして貸していただいた当時の原盤をCDに収めたものである。

曲が変わるごとに介護する方やプラザの面々は、持参したA4版の歌詞集が上手にめくれない人のお手伝いに忙しい。しばらく待ってから演奏がゆっくりと始まる。りんごの歌、青い山脈など懐かしい歌を全員で合唱する。先生の特訓が実ったという小澤さんの独奏をハラハラしながら聴く。「幸せなら手をたたこう」は職員・プラザの方々が入居者たちの間に入り、曲に合わせて手を叩いたり、足を踏んだりを一緒にする。最後に恒例となった曲、ナゴヤ球場で演奏していた郁子先生による「燃えよドラゴンズ」で終了した。

07年11月、このアミーユ十番館で開いた「 Hammondオルガンを持ち込んでの老人介護施設を慰問

する活動」は、今日で4回を数えるが、年2回の開催では間に合わないほど、他の施設から依頼が来ているとのこと、まだまだ楽器運びを頑張らなくっちゃ。今日の参加者は、櫛田・後藤・島崎・鈴木・高田・松永と小澤さんの方々でした。

日和田キャンプ場開設準備報告

昨年より参加しているキャンプ場の開設準備作業は、「前日、溪流釣りをしてから」と極めて不心得な気持ちを持ってである。

19日曜日、1000円の高速道を使って朝6時に庄川の里へ着く。今日からはから揚げにして夕食に振舞うこととし、釣った魚を握って拳の両側から頭と尻尾がはみ出る程度のものはビクに入れる、と後藤さんと話し合い数釣りに徹する。昨夜からの雨で水量は多く水勢は強い、まだ時々激しく降る。急な流れの際にそっと仕掛けを入れるとすぐ来た。小さいが絶好のから揚げサイズ。こんな小物が次々と釣れる。2人合わせて70尾、20人分ほどであれば充分と、12時納竿とする。庄川から高山を経て日和田キャンプ場に到着、早速ヤマメの腹を出し、塩胡椒を振り、小麦粉にまぶしてから揚げにした。

午後6時、東海クラブの浅野・伊藤さん、グランパスクラブの荒川・早川・三井さん、プラザクラブの櫛田・後藤、去年から引き続きの築山さん、お子さんがYMCAにお世話になっているご一家3人、元牧師で保育園園長ご夫婦、台湾YMCAからの研修生3人、森宗さんを含むYMCA職員の方6人の総勢22人が、沢山のバーベキューの材料が並ぶテーブルについた。宴が盛り上がるに連れて、みんなが持ち寄ったビールや酒を冷蔵庫から思い思いに取り出して飲む。気が付くと2次会に突入、周りはワイズの方々が集まり色々な話題に花が咲く。クラブ入会間のない私の疑問やときには不躰な質問にも親切に答えてくださったことを感謝します。11時就寝。

翌日海の日の朝、ゴソゴソと起床する物音に目が覚める。グランパスの人たちが作業服に着替えている。まだ5時半である。

7時まで寝て朝食を済ませ、キャンプ広場まで下りいよいよ草刈り機を担ぐ。昨年はじめて経験したこの作業のコツを掴んだつもりでも、肩にかけた吊るしバンドの調整に難儀する。道路、炊事場の回り、広場周辺を後藤さんと伸び放題の雑草を刈る。刈った雑草をレーキでかき集めて端に積む。

3人家族の中学生は鎌を使って、学習舎の脇に茂っている草を丁寧に刈っている。グランパスの3人は、チェーンソーを持ってキャンプ場の中を周回する道路に

はみ出た枝を掃いに行った。東海の伊藤さんは草刈り機を携えて周回路の雑草と格闘しているようだ。YMCAの女性は、道路に散らばった草を掻き寄せている。こんな広い場所にたった8人で何になるのだ、と無力感が襲うが、ひとり一人がそれぞれに自分の役割を全うしている姿に、これから子どもたちが楽しくキャンプ生活を少しでも快適に、との思いがあるのだろう。11時、先ほどから我慢していた腰が疼きはじめて、しばらく休憩。

ロッジまでクルマで周回路を通って帰ることにした。散策の道、と誰かが粋な呼び方していたが、まるでけものみちである。途中汗を流しながら一生懸命作業をする伊藤さんに出会った。

昼食を済ませ日和田を後にする。キャンプ最終日の8月13日、パレットキッズの子どもたちと一緒にマス釣りをする釣り堀「みやま荘」に寄り、昨年と同じ段取りで遊び、食事をすることを確認して、3連休の最終日、急いで名古屋に向かった。

もう夏ですね

もう夏ですね。夏といえばバケーション、バケーションといえば「旅行」ですね。

そこで私の趣味の一つ「旅行」について、マイブームを紹介します。私的には飛行機が好きで、よく沖縄や九州に行っていますが、最近旅の手配の仕方が変わってきたように思います。

以前は、まず町に出かけてパンフレットを集めました。その中で、希望にそった商品を見つけ、懐具合と相談しながらパッケージを選び、申し込んでいました。

でも最近は違ってきました。今のお気に入り、全日空(ANA)の旅です。全日空のホームページからアクセスして、飛行機・ホテル・レンタカーを自由に組合せることができます。沖縄の離島へ行く場合でも、出発地や経由地を含め、すべて好きな便を選んで往路復路を組み合わせることができ、ホテルも自由に選ぶことができます。往復の航空と最低1泊の宿泊を選べば、ツアーが成立しますので、途中で友だちの家に泊りたいとか、もっと安い現地の宿を探したいなど、いろいろな自由も利きますし、安く長く滞在する路を探そうと思えます。いろいろな行程を考えながら、どっちが得かなと天秤をかけながら、こだわりに合った旅をつくっていく作業自体が好きなのだと思います。

友人からは、「そんな面倒くさいことできん」という答が返ってきますが、自分としては全く面倒臭くなく、とても自己大満足できる作業なのです。き

っとこれは私の才能の一つなのだと、勝手に思い込んでいる今日この頃です。
(万福寺 昭美)

秋になったら

雑木林が所々に残っていたこの地に移り住んで50年になる。この夏、庭が住み処のセミたちは例年に比べて騒々しい。

3匹のセミ同士がお話しをしている。「みなさんのご家族とお会いするのは30年ぶりですね」とクマゼミが懐かしそうに言う。「アブラゼミさんのご家族とは6年ごとにお会いしていますが」とミンミンゼミ。「食料が乏しかった昔々、お互いのご先祖様が幼虫期を2年、3年、5年と割り振って、お互いの出会いを少なくしたお陰で生き延びたのよ。アメリカではジュウサンネンゼミとジュウシチネンゼミがいて、素数ゼミって言うそうよ」とアブラゼミがうんちくを語る。「また30年後にここでまた一緒にしましょう」と言い残してクマゼミが飛んで行った。

秋になったら古い家を取り壊し、庭を整地して半地下式の2世帯住宅を建てる予定である。

参考：素数とは、1より大きい自然数で、その数自身と1以外の自然数で割り切れない数。20までの素数は2・3・5・7・11・13・17・19である。

(櫛田 守隆)

聖書に由来する語句・慣用句・諺

【あなたがたの地の実りを刈り入れるときは、畑のすみずみまで刈りつくしてはならない。またあなたの刈り入れの落ち穂を拾ってはならない。あなたのぶどう畑の実を取りつくしてはならない。またあなたのぶどう畑の落ちた実を拾ってはならない。貧しい者と寄留者とのために、これを残しておかねばならない。わたしはあなたがたの神、主である。(旧約聖書・レビ記・19.9-10)】

【聖句に基づく絵の題材ミレーの「落穂ひろい」は、先月号の「種をまく人」と同じ場所、バルビゾンの農村風景です。刈り入れが終わった夕暮れどき、畑に残る麦の穂を拾う貧しい農婦3人が描かれている。ある美術書は「19世紀のフランスは貧しく、当時の農村には収穫時落ち穂をわざと残しておく習慣が生まれました。少量の穀物を、困っている人に黙って使わせてあげようという思いやりです。3人の農婦はおそらく生活に困窮した未亡人であり、農園に残された穀物を一生懸命拾っているところなのです。だから、あの絵はのどかな田園風景などではあ

りません。当時の生活の厳しさ、人々の心のやさしさ、そして必死に働くことの尊さを1枚の絵でみごとに表現したから、心にしみる傑作と評価されているのです。」と解説している。一方、もう少し踏み込んで、「収穫のとき畑の持ち主は、すべてを刈り取らないで貧しい人やよそ者たちのために残しておきなさい。」と旧約聖書レビ記に定められた律法が、慣行としてこの地方にあったことに感銘を受けて描いた、との解説もある。聖書の言葉を表現しながら宗教臭くない、むしろ知らない日本人にミレーの絵が好まれる一因かもしれない。】

Zoom・そのまま騒動始末記

テレビや新聞を見聞きして、ときどきの出来事でも思ったことをノートに書き付けている。

06.23・古賀選対委員長は、東国原宮崎県知事に衆院選出馬要請した。知事は出馬の条件に「全国知事会の地方分権に関する提言を自民党のマニフェストに盛り込む」はともかく、「総裁候補に」をテレビで聞いて笑い転げた。橋下大阪府知事は「シャレでしょう」と一言、将にその通り。

06.24・おっちょこちょいの言うことにテレビは、自民党は総裁候補を受ける、大臣の椅子を用意する、無視する、の三択であるとボードを使いながら解説している。馬鹿か、事がここまで大きくなったことに慌てて、あと2,3日すれば「お騒がせしました」と、謝罪する知事の姿が目につく。

06.26・本気らしい。テレビのワイドショーは連日東国原知事と自民党議員を追い、政治評論家とやらのご意見をお伺いしている。知事は「いたって真剣」といい、議員は「あほくさ」と無視、評論家は「総務相で手を打つかもかもしれない」のご宣託。まったく、あほらしくて物も言えない。

07.08・東国原知事は、昨日国会で古賀選対委員長と会談した。返事はまだ貰っていないようだが、今まで好意的だったメディアの風向きが変わってきた。上げて下ろすはメディアの常、知事!まだ遅くはない、「あれはシャレでした」と早く降りたほうがいいよ。

07.15・古賀選対委員長が、「自分の浅はかな知恵で迷惑をかけた」と都議選敗退やその原因といわれる東国原知事の擁立の責任をとって辞任した。東国原知事!! もう出番はなくなった。

07.17・昨夜東国原知事が、「全国知事会のマニフェストを100%盛り込めない」との回答を受け、「自民党からの出馬はない」と記者会見で述べる姿をテレビが映していた。そのまま騒動は、あっけなく幕を閉じた。